

- 3 景観まちづくり方針（例）

【基本認識】

- ・平成19年に策定された札幌市の景観形成を推進するうえで基本となる「札幌市景観計画」において、「景観整備は、都市基盤、土地利用、人口動態等の都市活動から生ずる開発や建築行為を自然環境や地形等を踏まえつつ、人間的な視点でコントロールする必要があり、まちづくりと一体となって進めるべきものである。」としている。
- ・地区別の景観形成の方向性として、都心部は「世界都市にふさわしい魅力的な景観の形成」を目標として以下の6つを基本方針としている。

骨格軸や交流拠点などの個性を生かした、賑わいのある魅力的な街並みを形成する

歴史的景観資源などを活用・再生し、都心の魅力ある街並みを形成する

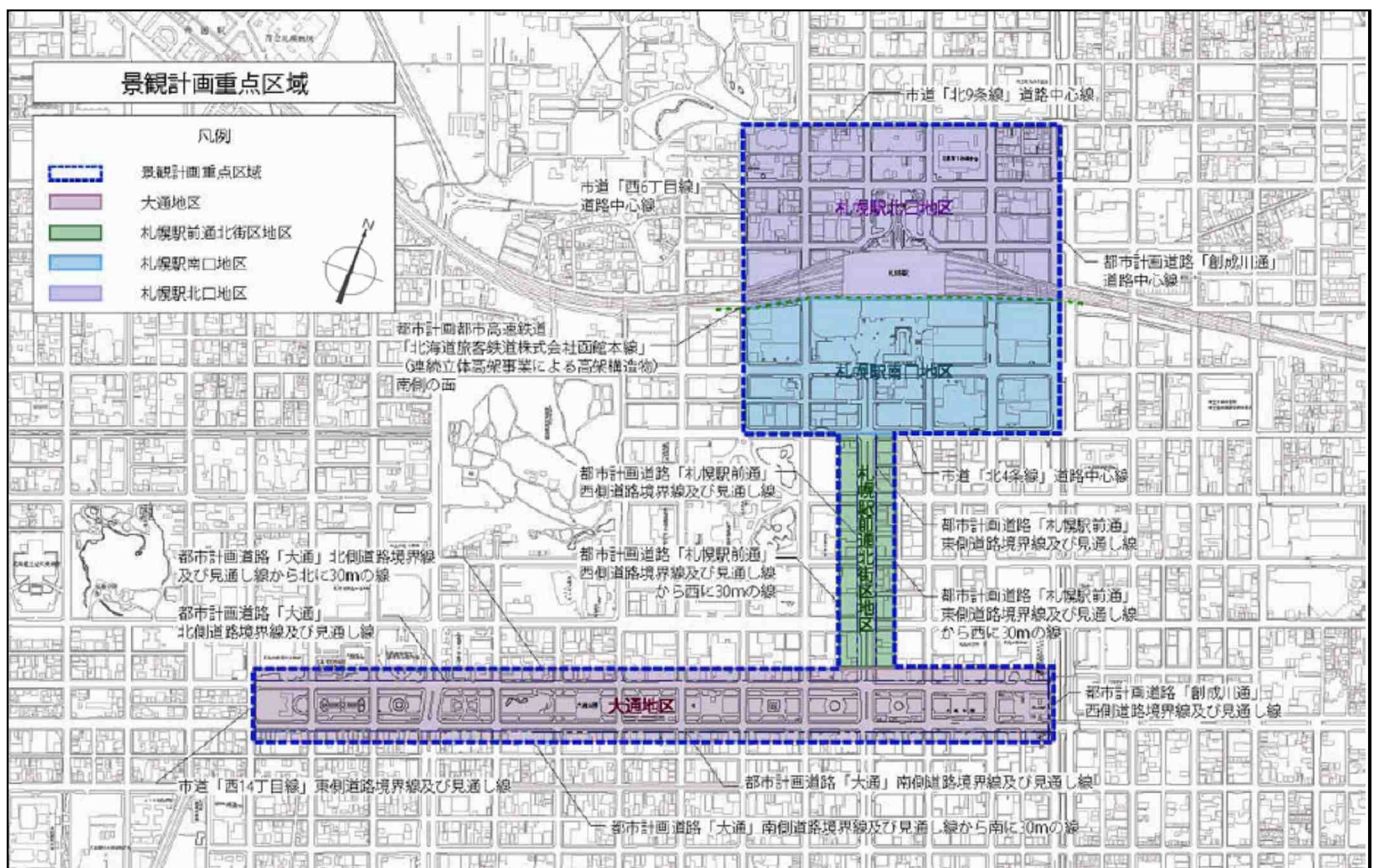
みどりや水辺などの大規模オープンスペースを生かし、水と緑のネットワークを創出する

人にやさしい、安全・快適な区間を創出する

豊かな景観資源を生かした、魅力的な沿道景観を形成する

山並みなどへの眺望に配慮した景観を形成する

景観計画重点区域（札幌市景観計画）



着目点

1 場所性を考える

札幌の景観構造は“山と平地”“直線的な都市軸”“郊外の豊かな緑”などで、これらが景観を形づくる土台となっています。

- 南西部の山並み、都心部の扇状地、北部の平地など地形の変化と開放感は、地域の個性を演出する大切な要素です。
- 大通や創成川などの景観軸のほか、直線の道路が随所に見られます。これらの景観軸をとおして山並みや街のランドマークから、季節感や方位、街の奥行きが読み取ることができます。
- 開拓期の街割りや、歴史的建築物などから街並み形成のコンテクスト(軌跡)を読み取り調和させることで、地域の個性と札幌への愛着を育むことができます。

着目点

2 色彩環境を知る



建築物等の色彩は、目立たせるのではなく季節毎に変化する花や樹木など自然の美しさを強調させる効果を考えましょう。そのためには自然環境と調和する札幌景観色70色を基調とし、北国特有の色の見え方を考慮しつつバランスの良い配色計画をすることが重要です。

札幌の色彩環境

- 四季の変化が鮮明で、背景色が大きく変わる。
- 早春や晩秋など、色彩感の乏しい時期がある。
- 湿度が低いため、空気が澄み色鮮やかに見える。
- 緯度が高いため、光が青っぽく感じられる。

札幌の目指すカラーイメージ

- 広い大地の開放感や先進的の気質を生かし、豊かな自然環境を背景にバランスの良い色彩計画とします。
- 北の拠点都市にふさわしい、明るくスッキリとした配色にします。
- 北国らしい、四季の変化を大切にした色彩環境をつくります。

着目点

3 逍遙空間をつくる



格子状の街路が特徴的な札幌の街は、条丁目表示が座標となり、わかりやすい一方で単調で無味乾燥なイメージを与えます。

- 歩行者に“安全”“ゆとり”“楽しさ”のしつらえを提供すると、街の表情が豊かになります。角地や仲通りにつくるとより効果的で、逍遙性が高まり、街歩きが楽しくなります。

雪は札幌らしさそのものです。街に降り積もる雪は、連続的な空間の広がりや、敷地内のなごみの空間を演出してくれます。恵まれた天然の素材を景観に生かしましょう。

- 夜間の温かみのある照明は、雪景色をさらに美しく見せます。ショーウィンドウ等からもれるあかりは、街の賑わいや楽しさを演出するとともに、歩行の安全性を高めます。
- ポルティコ[※]やアトリウムは、雪や雨から人々をやさしく守るとともに、積極的なライフスタイルのための親雪装置です。空間の形態を工夫し、快適な歩行環境のネットワークを図りましょう。

※ポルティコ：ひさしと独立柱の列がつくる回廊状の空間。



【市民意見等調査より】

- ・札幌駅周辺地区のイメージを高めるためには、広場、景観、観光案内といった来訪者を迎え入れる演出や機能を必要とする意見が多い。（市民アンケート、WEBアンケート）
- ・国際都市を目指すには赤レンガや雪といった歴史・文化性を表現することが重要である。（留学生・学生WS）
- ・札幌らしさを表現する上でも、「みどり」を増やすことが必要である。みどりは、都市空間との調和も重要な視点である。（留学生・学生WS）
- ・札幌駅にも金沢駅のように文化を感じられるシンボリックな空間が必要ではないか。（事業者ヒアリング）

【基本方針】

- ・以上を踏まえ、札幌駅交流拠点における景観まちづくり形成方針を次のように設定する。

札幌駅交流拠点から連なる骨格軸沿いは協調的呼応空間の形成を誘導していく。景観面から主要な骨格軸に次ぐ重要な東西軸として北5条通を位置づけ、山並みの眺望に配慮した景観形成を図る。

【具体的な取り組みイメージ】

< 協調的呼応空間の形成 >

（短期的な取り組み）

- ・札幌駅交流拠点から骨格軸に連なる都市空間の協調的・一体的な形成を図るため、協議会などの関係者間の協議の場や実施に向けた体制づくりを図る。

（中長期的な取り組み）

- ・札幌駅交流拠点、とりわけ南口の駅前街区は道都札幌の玄関を降り立った瞬間の印象を決定づける重要な空間であることから、駅前広場と呼応し、かつ性格の異なる広場（例えば大樹の木陰広場など）の形成を目指す。
- ・将来的に北5西1・2街区の一体的整備が進められる場合には、例えば高層階の「壁面線」を既存の北5西4街区に合わせるなど、協調的な空間形成を誘導する。
- ・また、各街区相互の連携強化と界隈空間の形成を図るため、単調なグリッドパターンを楽しく裏切る屋内外のフットパスが連絡しあうことが望まれる。（例えば、アスティ45の駅と道庁をつなぐ斜めパスなど）

< 山並みの眺望に配慮 >

(短期的な取り組み)

- ・北5条通においては、190万都市でありながら豊かな自然が間近に感じられるようにするため、西方にそびえる山々（手稲山、三角山、円山、大倉山等）の眺望を妨げないよう街路の植栽に工夫を施す。

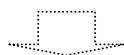
(中長期的な取り組み)

- ・一方、緑化については、セットバックなど民地側の協力により小さな森や大樹の木陰空間を形成する。

- 4 パブリックライフ展開方針（例）

【第3回委員会意見より】

- ・パブリックライフは日本では概念的に定着していない。札幌のパブリックライフはということなのかをきちんと示すことが必要。



【基本認識】：札幌都心におけるパブリックライフとは？

- ・都心におけるパブリックライフは、働く、学ぶ、遊ぶ、住む、といった基本的な都市の生活を支える人と人、人と都市とのコミュニケーション活動⁴であり、イベント交流や文化活動、ビジネス交流などを通じて育まれる人々の連帯感や都市を楽しみ、誇りに思う姿が、魅力的な都心の風景を創出する。
- ・都心ならではの豊かなパブリックライフは、いつも何かが起きていて刺激に満ちていること、また逆に、都心にいながらホッとする居心地のいい空間があること、そしてそこでは、都市に生活する人同士の、あるいは観光で訪れた人々との「コミュニケーション活動」がなされ、都心の魅力が伝播されていくこととなる。
- ・札幌都心におけるパブリックライフは、これまで大通公園を中心に展開されてきており、今後は現在整備が進められている創成川通をはじめ、都心の4骨格軸・1展開軸・3交流拠点を中心に展開されるものと考えられる。
- ・ここで大通公園におけるパブリックライフの歴史をひも解いてみると、明治4年に火防戦として整備されて以来、競馬や農業博覧会の開催、逍遥地や運動場、スケート場のほか、戦時中には食糧確保のための畑としても活用された。その後、雪まつりをはじめ、夏まつり（ビアガーデン）、ホワイトイルミネーションなど、様々な展開が図られ、今日に至っている。
- ・ここで重要なのは、これらの展開が単なる商業的展開ではなく都市への愛着や誇りを醸成し、それが人々のコミュニケーションによって広く伝播していくものかどうかという点である。
- ・札幌市は情報公開では全国一といわれているが、今後は公共空間等におけるパブリックライフの展開についても、都心まちづくり戦略でいう重層的なエリアマネジメントを推進し、札幌流の持続可能な生活文化の創造をめざすべきである。
- ・2010年の夏まつり（ビアガーデン）は、夜間の営業時間の短縮やスピーカー音量の制限が行われたが、こうしたマネジメントを主催者や地域住民だけでなく、広く札幌市民やその他の民間企業も参画して継続的に展開してはじめて生活文化の創造につながるのである。なぜなら、都心におけるパブリックライフは市民みんなが享受すべきだからである。
- ・本構想では、こうした市民・企業・行政の共創によるパブリックライフの展開を札幌流と定義する。

- 4：ここでいうコミュニケーション活動とは、都市のもつ空間や歴史・文化、人々等と出会い、触れ合うことによって、都市のよさ、素晴らしさを体感する、あるいは自らが都市活動に参画することによって、新たな都市の歴史・文化等の創造することをいう。これらの行為により、結果として人々の都市に対する愛着や誇りが醸成される。

【市民意見等調査より】

- ・市民検討会では、20年後のあるべき姿として、文化性（食文化の発信、伝統的なイベントへの発展など）、自然（憩いの場としての緑の広場など）、国際性（札幌ブランドの国際化など）、創造性（学ぶ場や発表の場など市民交流の促進）の順で重要度が高いとの結果が得られた。（市民検討会）
- ・札幌都心の北海道におけるハブ機能や中心性を強化するためには、札幌駅の消費機能のみでは不足であるので、都心全体の魅力を向上させることが求められる。（事業者ヒアリング）
- ・札幌ファンを増やすためには、人とのコミュニケーションが増進されるソフト的な取組みが重要である。（事業者ヒアリング）
- ・にぎわいのためには人を歩かせることが最も重要なので、札幌駅前通を週末限定でよいので歩行者天国にしてはどうか。（事業者ヒアリング）

【基本方針】

魅力的な都市の風景の創出：人々が様々な交流活動に参加する、まち歩きを楽しむ、豊かな時間を過ごす、そういった活動を可能にする都市空間を創造し、都市の魅力を高める。

まち歩きの基軸回廊：シーンや歩行形態が様々に変化する「基軸となる歩行者動線」を形成する。

テラスストリート：創成川と隣接する街路や建築物の間で人々の「見る・見られる関係」を様々な形態・仕掛けにより創造する。

【具体的な取り組みイメージ】

< 魅力的な都市の風景の創出 >

（短期的な取り組み）

- ・ 4 骨格軸・ 1 展開軸・ 3 交流拠点を中心に、日常的な憩いの空間としての活用のほか、各種イベントやフェスティバル等の展開により、魅力的なパブリックライフの展開を図る。
- ・ このような都心の魅力を醸成するために、行政はビジョンを明確化し、民間は公開空地や緑を提供するとともに、パブリックライフにかかわるルールづくりを市民とともに共創していく。
- ・ パブリックライフの展開イメージとしては、例えば次のようなシーンが考えられる。

新しい名所となる創成川通では、文化創造拠点を核にして、芸術家のみならず、市民参加による様々なアートイベントがいつも行われている。駅前通りや大通では「だいどんでん」をはじめとする大道芸が繰りひろげられている。

札幌を代表するお祭りとなった「よさこいソーラン祭り」や、長い歴史をもつ「北海道神宮御神輿」も毎年祭典区を変えながらも、必ず札幌の顔である「まち歩きの基軸回廊」を渡り歩く。

四季の変化を楽しむ工夫として、例えば北海道の短い夏を満喫するビアガーデンは大通のみならず、創成川の水辺とともに、あるいは駅周辺の屋上でも西方の山々を眺望しつつ楽しむ。また、長い冬を満喫するため、夏のビアガーデン会場は歩くスキーコースやスケートリンクとして活用するなどが考えられる。

(中長期的な取り組み)

- ・北3条通においては、北海道大学植物園の北方民族資料室に端を発し、北海道開拓の歴史や文化をうけつぐ道としての展開を図るため、例えば北海道大学図書館北方資料室、北海道立図書館北方資料室、札幌市文化資料室、札幌市資料館等の分室の開設や移転等を検討する。

<まち歩きの基軸回廊>

(中長期的な取り組み)

- ・4骨格軸（札幌駅前通、創成川通、大通、北3条通）及び1展開軸（東4丁目線）に加えて北5条通および北8条通で、ストリート文化が感じられ、パブリックライフが楽しめるまち歩きの基軸回廊を形成する。
- ・このため、現在北3条まで整備が進められている創成川通の親水公園化をさらに北へ延伸する。
- ・まち歩きの基軸回廊では、将来的に次のようなシーンがイメージできる。

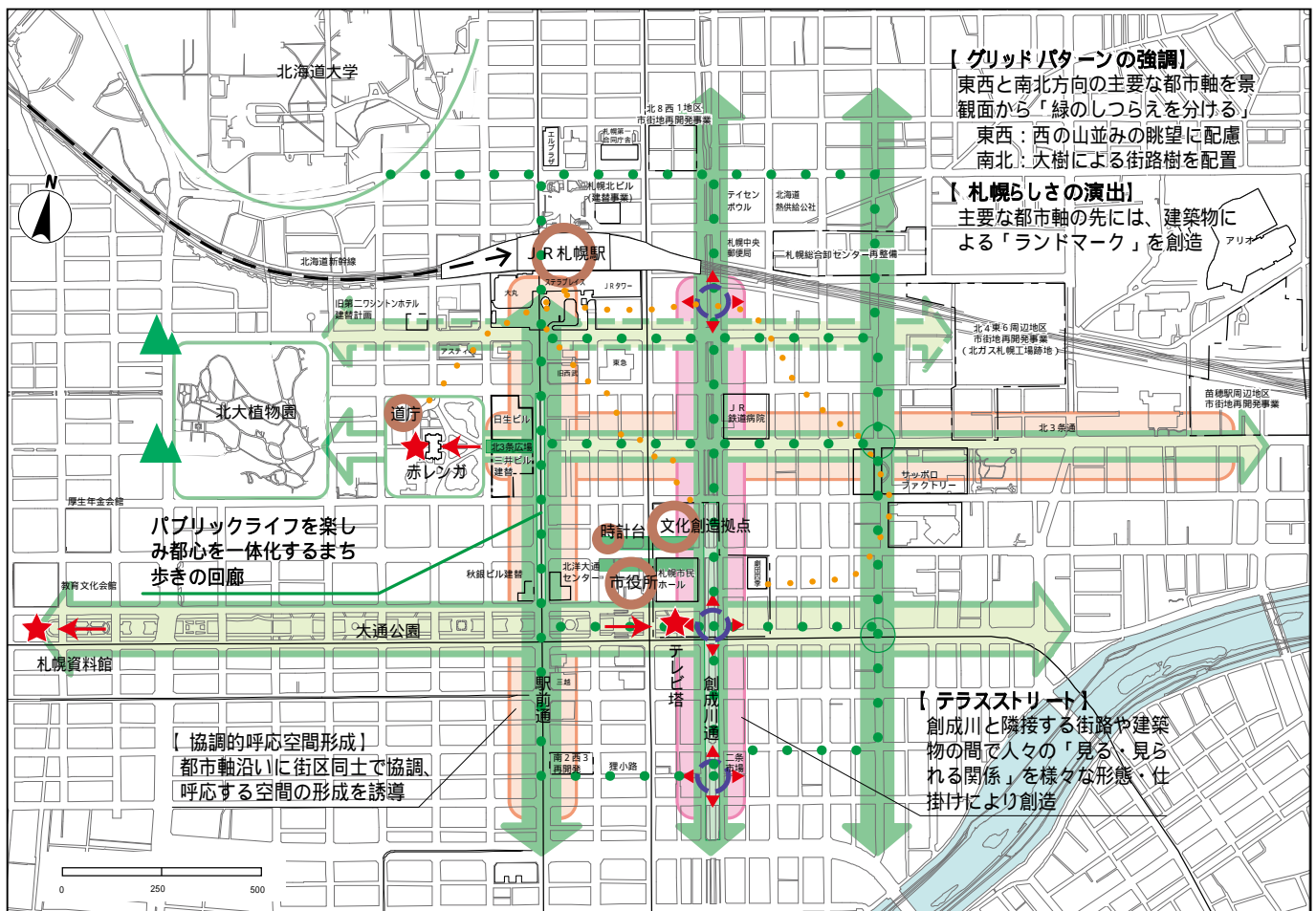
札幌駅を降り立って駅前の交流広場を眺めつつ、2階デッキにより東方向へ向い、やがて創成川に到達し、芸術と緑につつまれた創成川通を散策。創世交流拠点を經由して大通り公園を西に散策すると駅前通にいたる。駅前通は晴れた日は地上を、雨・雪の日は地下を選択できる。

<テラスストリート>

(中長期的な取り組み)

- ・水辺空間が復活した創成川通は、人々がたたずみ、あるいは各種アートイベントなどを楽しむ、札幌都心の新たなパブリックライフを演出する空間である。ここでは、例えば将来の創成川以東地区の開発を展望して、札幌駅と創成川以東地区を連結する2階レベルのデッキの整備を図り、「創成川を見る、見通す広場空間を確保」し、直接創成川に降りられるような環境を形成する。
- ・また、創成川に面している北5西1街区の東側は、「四季折々の変化や創成川でたたずむ人々、また、イベント時の見る・見られる関係をつくる」ため、カフェ・レストラン、展望デッキなどを配置する。

図 景観まちづくり形成・パブリックライフの展開に向けた考え方



- 5 街区再整備の基本方針（例）

【基本認識】

- ・札幌駅交流拠点の再整備にあたっては、北海道新幹線や路面電車の延伸、都心アクセスの強化といった今後予想される交通環境の変化に対応しつつ、交通結節機能の充実、交流拠点にふさわしい新たな機能の導入、札幌らしい優れた都市景観・都市環境の形成、パブリックライフの起点としての交流空間の充実等を踏まえ、街区の再整備、再編を図ることが求められる。

【基本方針】

- ・基本認識を踏まえ、将来の街区再整備の方針を整理すると次のようになる。
 - 5・2街区と5・1街区の一体的な再整備
 - 5・2街区、5・1街区と連動した4・3街区の再整備
 - 5・2街区再整備にあわせた南口駅前広場の再整備
- ・これらの再整備にあたっては、現在動きのある北8西1再開発や札幌卸センター再整備、また北5東1地区など将来の創成川以東地区の開発等との機能連携や歩行者ネットワーク等の確保が求められる。
- ・さらに、札幌駅南口エネルギーセンターや既存エネルギーインフラの有効活用のほか、「CASBEE札幌」への対応など、「環境首都・札幌」の実現に向けた取り組みが求められる。

【具体的な取り組みイメージ】

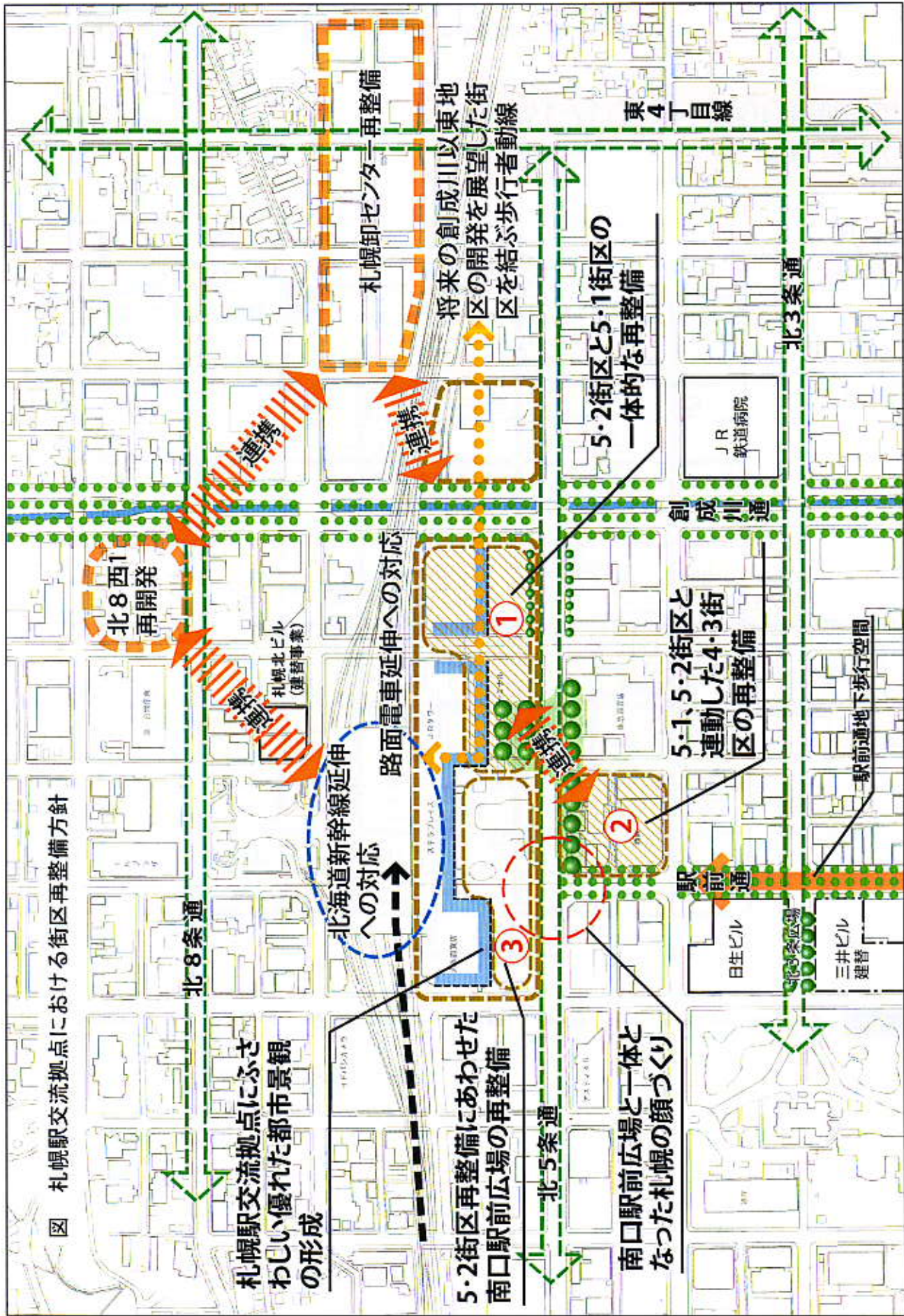
（短期的な取り組み）

- ・札幌駅南口駅前広場においては、各種イベントの開催など、パブリックライフの起点としての利活用を促進する。
- ・札幌駅南口駅前広場に呼応した新たな駅前の顔づくりとして、4・3街区の再開発に向けた検討を進め、札幌駅交流拠点にふさわしい高次都市機能や新たな機能の導入を図る。
- ・5・2街区と5・1街区の一体的な整備に向けて、関係者間での協議や手法の整理などの検討を進める。

（中長期的な取り組み）

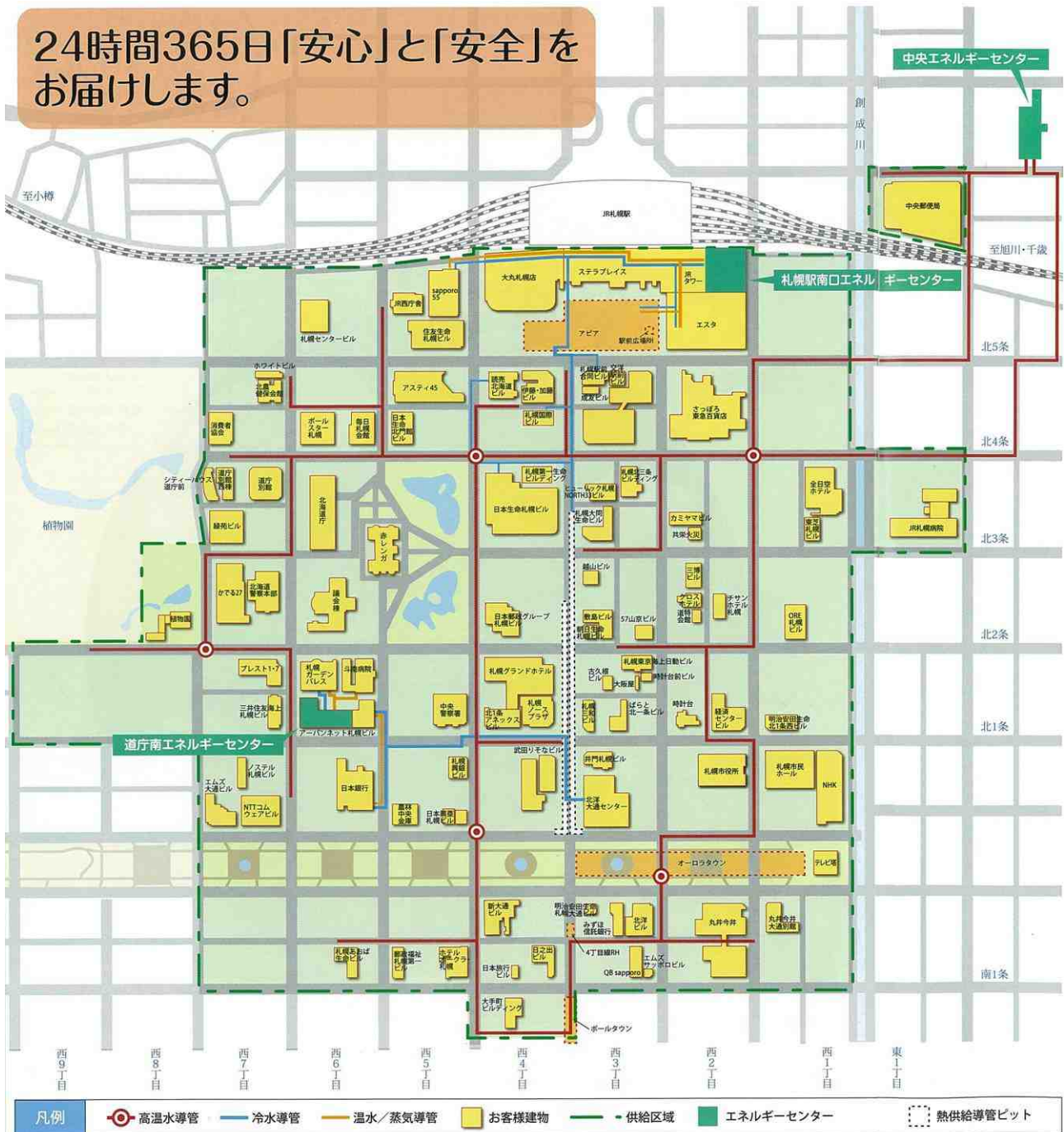
- ・5・2街区と5・1街区の一体的な整備により、老朽化が進むエスタビルの再生を図り、札幌駅交流拠点にふさわしい高次都市機能および新たな機能の導入と駅施設建築物の正面性の向上を図る。
- ・あわせて、南口駅前広場の変則タクシープールの解消と北海道らしさを感じる緑豊かな駅前広場空間の創造を図る。

図 札幌駅交流拠点における街区再整備方針



【参考】都心地区熱供給エリアマップ

24時間365日「安心」と「安全」をお届けします。



(株)北海道熱供給公社パンフレットより